

高齢者の生きがい創りに繋げる 交通まちづくり

(公財) 豊田都市交通研究所 主任研究員 樋口恵一

なぜ「生きがい」?

- ・生きがい就労という言葉に代表されるようにプロダクティブ・エイジング (生産的高齢者) の活動機会を創出して高齢者の生きがい創りに力を入れている地方自治体が多い。
- 生きがいは、健康や体力が衰えてもサクセスフル・エイジング〔幸福な老い〕を規定する重要な要因であるといわれている。

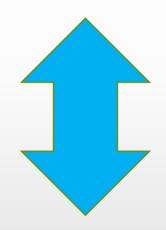
「生きがい」とは。

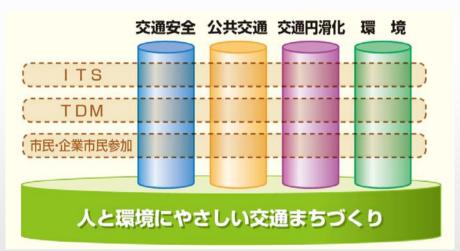
- ・日本独特の概念
- ・生きている実感や喜び,充実感,張り合い,自己実現などの概念により表現されているが,共 通尺度は存在しない
- ・柴田は高齢者の生きがいを『従来のQOLに何か他人のためにあるいは社会のために役立っているという意識や達成感が加わったもの』と定義
- この定義を踏襲すれば,生きがい意識は個人の 主観的な感覚であるが,社会や地域が無ければ 達成しえないことを意味する

交通まちづくり

出典:新しい交通まちづくりの思想

住民参加、すなわちコミュニケーションからのアプローチが極めて重要になる「身近なレベルの交通」において、交通を重要なキーワードとしてまちづくりを進める取組み





生きがい

『従来のQOLに何か他人のためにあるいは社会のために役立っているという意識や達成感が加わったもの』

本日の内容

- 1. ヒアリング調査の概要
- 2. まちづくり⇔生きがい意識
- 3. 個人⇔生きがい意識
- 4. 高齢者の生きがい創りに繋がる交通まちづくり

対象地区

- ✓地区内に病院や買物施設が無く,高齢化率30%と今後の少子高齢化が課題
- ✓都心部に近接し、農山村集落と宅地造成された地域が 融合している石野地区を対象

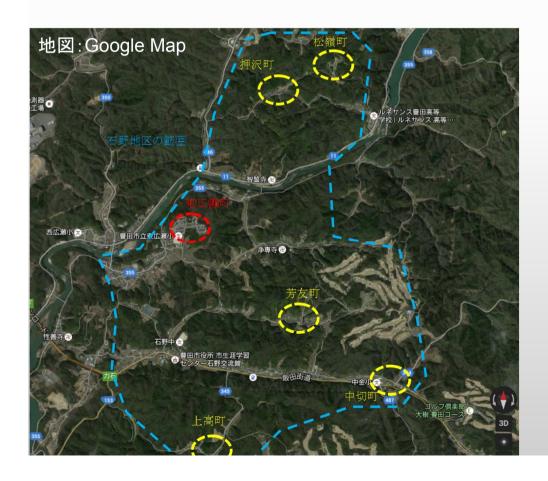






ヒアリング調査の概要

- ・地区内の様子を均一的に調査
- ・農山村集落(5地域)と宅地造成(1地域)を対象







調査の概要

事前に対象地域の高齢者が居住している世帯に3票の調査票をポスティングし、自治区毎に訪問日を指定してヒアリングを実施

対象地域	配布 世帯	回収数 ヒアリング 有(人)	回収数 ヒアリング 無(人)	回収数計 (人)
上高町	9	10	3	13
押沢町	5	5	1	6
松嶺町	10	10	2	12
芳友町	19	24	7	31
中切町	17	22	4	26
東広瀬町	117	78	35	113
計	177	149	52	201





※回収数計の201名は、地区に居住している介護認定を受けていない 高齢者における信頼度98%・標準誤差7%の精度のサンプル

調査項目

- ① 個人属性
- ② 老研式活動能力指標(生活動作能力) +主な買物先・運転の 有無・ご近所づきあい
- ③ 楽しみ
- ④ 地域活動への参加状況
- ⑤ 生きがい意識 (Ikigai-9)
- ⑥ これまでの経験と特技・技能(キャリア・就業状況)
- ⑦ 今後の就労意向・シルバー人材センターについて
- ⑧ 勉強会や講座などへの関心度合い
- ⑨ 食料品などの買物拠点づくりへの協力意向
- ⑩ 今後の移動について

生きがい意識の尺度

◆生きがい意識尺度(lkigai-9) 「とてもあてはまる」~「ほとんどあてはまらない」の5段階で回答

総生きがい得点	生活・人生に対する 楽天的・肯定的感情 (3点~15点)	自分は幸せだと感じることが多い。		
		こころにゆとりがある。		
		生活がゆたかに充実している。		
	未来に対する積極 的・肯定的姿勢 (3点~15点)	何か新しい事を学んだり、始めたいと思う。		
		色々なものに興味がある。		
		自分の可能性を伸ばしたい。		
	自己存在の意味の認 識 (3点~15点)	自分が何か他人や社会のために役立っていると思う。		
		自分の存在は、何かや、誰かのために必要だと思う。		
		自分は誰かに影響を与えていると思う		

(出典:今井忠則・長田久雄・西村芳貢;生きがい意識尺度(Ikigai-9)の信頼性と妥当性の検討,日本公衛誌第7号,pp433-439,2012)

まちづくり⇔生きがい意識

- ・地域活動、まちづくり活動を行っている団体への参加者の生きがい意識は高い
 - ※湿地を守る会・ささゆり保存会・広瀬愛護会など
 - ※男性26名,女性15名,前期高齢者(65歳~74歳)が70.7%

	参加群(n=41)		不参加群 (n=148)		t検定	
	平均得点	分散	平均得点	分散	(等分散)	
生活・人生に対する楽天 的・肯定的感情	10.7	6.3	10.3	5.9	p=0.148 (片側)	
未来に対する積極的・肯 定的姿勢**	9.3	7.7	7.7	7.2	p=0.0004 (片側)	
自己存在の意味の認識**	9.2	7.5	8.0	8.0	p=0.0068 (片側)	

まちづくり活動への関心意向者の要因分析

A:防災講座への関心意向 B:防犯講座への関心意向 被説明 c:移動手段確保に向けた講座への関心意向 変数 ※いずれも、「興味あり(非常に興味ある・興味あるを回 答)」、「興味なし(あまり興味ない・全く興味ないを回 答) | に分類 性別(男性,女性) - 年齢(~69歳, 70~74歳, 75~79歳, 80歳~) ・ まちづくり団体への参加状況(参加している,参加し ていない) 説明 ・ 生きがい意識得点(生活・人生に対する楽天的・肯定) 変数 的感情,未来に対する積極的・肯定的姿勢,自己存在 の意味の認識) ※全回答者の平均値を基準に、平均以上を「高い」、平均得点 未満を「低い」と定義 キャリア(第一次・二次・三次産業・無職)

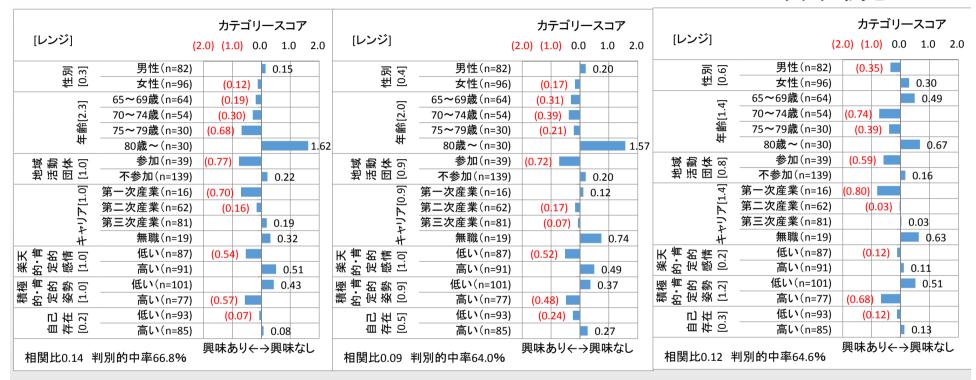
TTRI Toyota Transportation Research Institute

要因分析結果

防災講座への興味・関心

防犯講座への興味・関心

移動手段確保に向けた講座 への興味・関心



関心意向者と生きがい意識の関係

	高い	低い	
生活・人生に対する楽天的・肯定的感情		防災・防犯・移動手段	
未来に対する積極的・肯定的姿勢	防災・防犯・移動手段		
自己存在の意味の認識		防災・防犯・移動手段	

要因別の興味・関心の傾向

属性			興味力	がある講座
	男性	移動手	段	
性別	女性	防災,	防犯	
	65~69歳	防災,	防犯	
	70~74歳	防災,	防犯,	移動手段
	75~79歳	防災,	防犯,	移動手段
年龄	80歳~			-
地域活動団体への	参加	防災,	防犯,	移動手段
参加	不参加			-
	第一次産業	防災,	移動手	三段
	第二次産業	防災,	防犯,	移動手段
	第三次産業	防犯		
キャリア	無職			-

運転手として21名、運行計画や管理に10名の方が協力できると回答 ※一昨年度の調査結果「ボランティア輸送への協力意向」



個人⇔生きがい意識

高齢者の8割以上が喜びや楽しみを感じているが , 普段楽しみにしている事の8割強がテレビやラ ジオとの報告(内閣府調査;平成25年、平成26年)

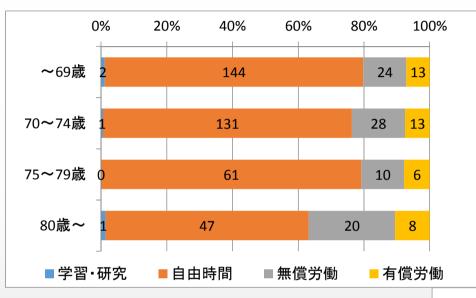
→充実した幸せな社会生活を送るためには 「楽しみ」になるものの存在が大きいのでは?

「楽しみ」について

・楽しみの内容に条件(回答項目)を定めず,自由記述で楽しみの内容・場所・移動手段・頻度を複数回答で調査

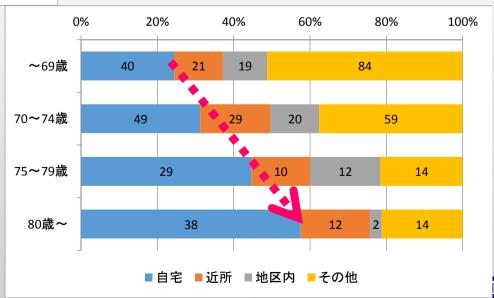
大分類	中分類	回答数
	主な仕事関連	32
有償労働	副業関連	2
	その他の仕事関連	6
	家事	56
無償労働	育児	8
無負力制	買物・サービス	14
	ボランティア活動関連	4
学業,学習・研究	学習・研究	4
	社会的・宗教活動	8
	交際	2
自由時間	教養・趣味・娯楽	212
—————————————————————————————————————	スポーツ	85
	マスメディア利用	71
	休養・くつろぎ	5

年齢とのクロス集計結果

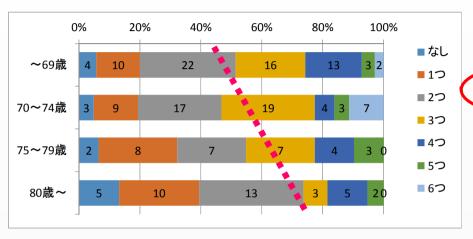


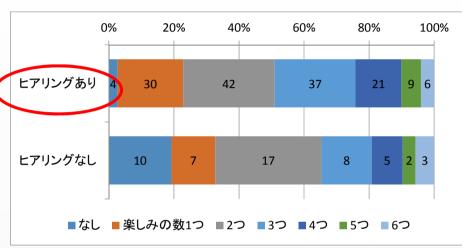
←年代別の差はみられない 80歳をこえると「無償労働」が多い

年代が高まるにつれて「自宅」が多い → 活動の範囲が狭くなる

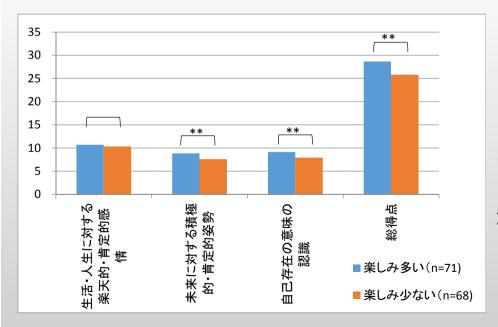


楽しみの数に着目した分析





x2検定:p=0.004**



※「ヒアリングあり」のみ集計

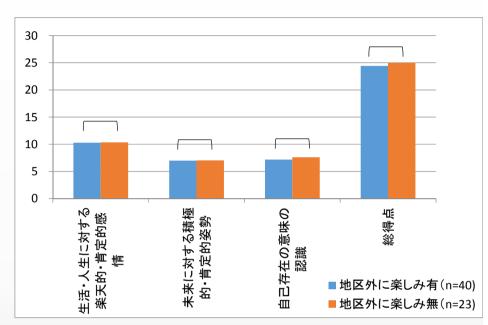
地区全体の高齢者の楽しみの数が平均で2.6

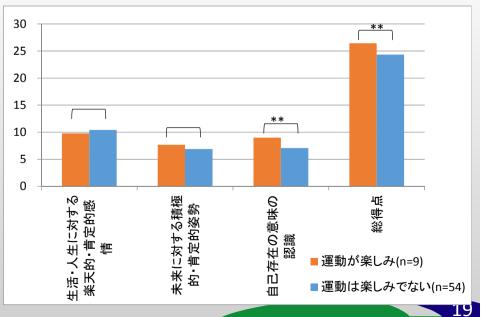
- ・楽しみの数が3つ以上=「楽しみ多い」
- ・楽しみの数が2つ以下=「楽しみ少ない」

地区外楽しみと生きがい意識

地区外での楽しみが「ある人」と「無い人」では生きがい意識に差が無い

運動と生きがい意識





生きがい創りに繋がる交通まちづくり

◆担い手、受け皿づくり

「未来に対する積極的・肯定的姿勢」が高い方、 問題意識を持たれてる方を把握し勧誘

- →具体的な取組みを示すことが肝要
- →参画することにより「生きがい意識が高まる」
- ◆地域の足づくり
- 高齢になるにつれて → 運転できなくなる
 - → 活動範囲が狭まる
- →高齢者の生きがい(楽しみ)、
 コミュニティ維持を支える移動手段

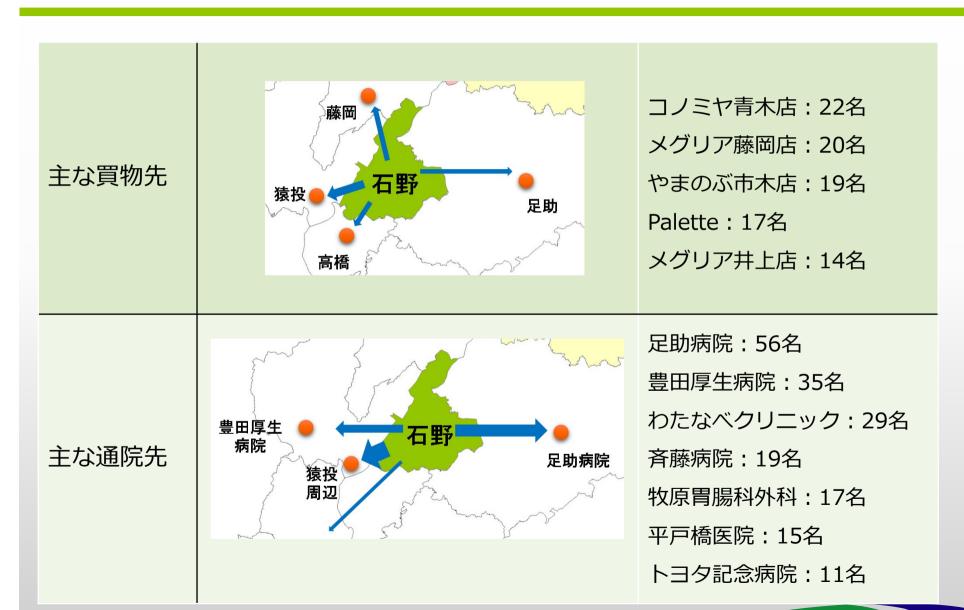
小さな拠点づくり



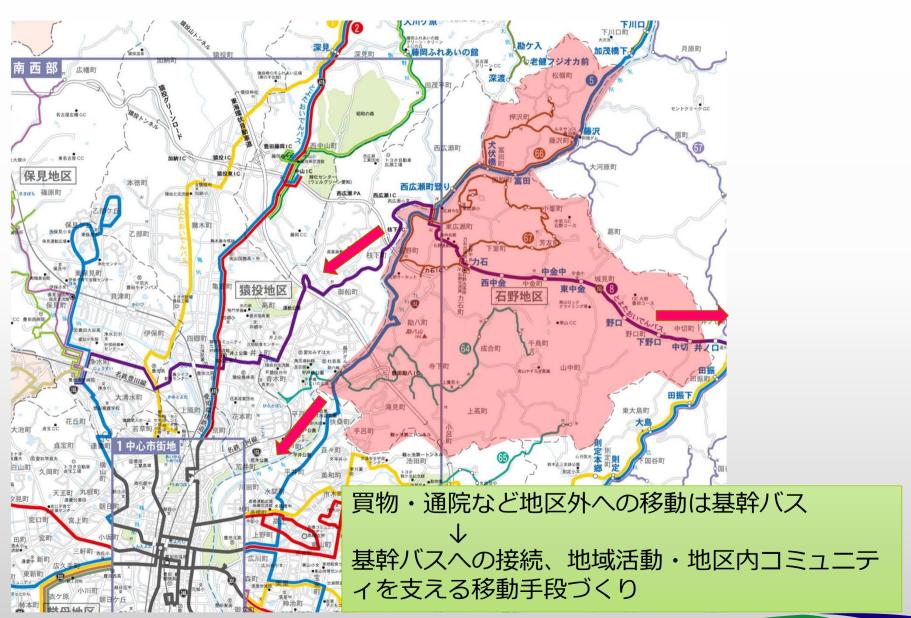
<出典>国土交通省;小さな拠点づくりガイドブック, H27.3



石野地区の生活実態(平成26年度TTRI調査結果より)

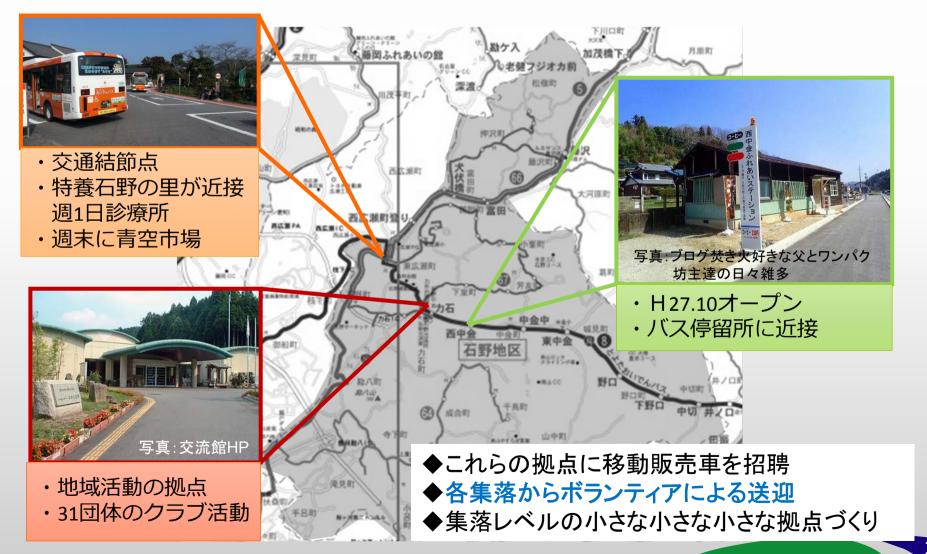


TTRI Toyota Transportation Research Institute



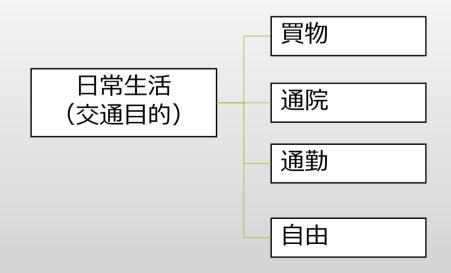
提案

憩の場(交流館・公民館)やバス停を 核とした「小さな小さな拠点」づくり



おわりに

- 「生きがい創り」にフォーカスした提案。
- まちづくりとして何を目指すかがカギ。
- 地域のポテンシャル、地域の風土・特性に応じた交通まちづくりを期待。





ヒアリングの声

2ヶ月に1回は、週2便の地域バスに乗り、おいでんバスに乗り換えて街に珈琲を飲みに行くことが楽しみです

週1日の移動スーパーが来なくならない様に、多くは買わないが毎回顔を出す様にしている。

若い人に迷惑をかけるから、地域活動などは参加しなくなった。

田畑や山の手入れ、維持管理で忙しい。楽しみは晩酌ぐらい。

若い世代は、市内に住んだら中々帰ってこない。

週2便じゃ乗らない。

おいでんバスを団地まで入れてほしい。